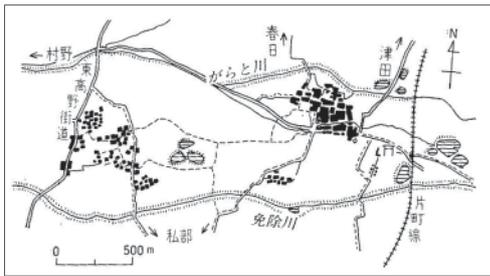


まちの名に歴史あり

問い合わせ 文化財事業団 (TEL 893・8111)

にしぐち
西口 名前のお通り、西の出入口を指し、教育文化会館の西から枚方の村野への出入口を示しています。倉治の旧集落の西にあたり、木戸などを設けて村を守っていたと考えられています。

「口」のつく地名は、集落の周りを溝で囲んだ防御性の高い環濠集落に多く見られることと、明治20年に作られた下の地図をみると、集落が分散せずに一か所に固まっていることから、倉治が環濠集落であったことがうかがえます。



明治20年の郡津・倉治の集落
(■部分が集落のあった場所)



きたんだい 倉治の集落の北側、がらと川の北にある東西に細長い土地の、**北代** 関西電力枚方変電所から枚方の村野浄水場近くを北代と呼びます。

一般に「代」は「しろ」と読み、耕作地の区画のことを指しますが、倉治の北代は山麓部分を指します。これは倉治から北代をみると台地状になっているため、北代の「ダイ」は本来台地の「台」であったものが、後に「代」という字で表わされるようになったと考えられます。

歴史・文化スポット

☆ 教育文化会館

三層の塔がある西洋の中世城郭をモチーフにし、外壁にはスクラッチタイルをはめ込み、屋上先端部にはパラペットと呼ばれる装飾壁があります。建物内部にも文様細工が施されており、昭和4年の建設当時はモダンな建物でした。

この建物は交野無尽金融株式会社の社屋として建設され、昭和17年に交野町へ庁舎として寄贈されました。

その後、教育文化会館となり、歴史民俗資料展示室では市内で見つかった土器や古文書などを展示し、交野の歴史を発信しています。



☆ 機物神社

機物神社の創建について詳しくはわかりませんが、江戸時代には村中から神主を選び、十六善神画像を守り、七夕におはらいをする神事が行われていました。現在では、七夕の日に境内に五色の短冊を結んだ笹が飾られ、七夕祭が盛大に行われています。今年の七夕祭について詳しくは3ページをご覧ください。

また、機物神社には「えぼしぎ帳」が残されています。もともとは武士の風習であった元服の儀式が江戸時代に農民にも広がり、16歳になると前髪を落として鬘を結び、烏帽子名を付けました。さらに、元服後に朝廷から官位を与えられたことになって、かんどうな官途名も付けられました。この烏帽子名と官途名を記したものが「えぼしぎ帳」で、倉治では機物神社で元服の儀式が行われていたことがわかります。